

共生共創事業とは

神 奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きるともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まで全ての人が、舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

KAAT 神奈川芸術劇場・共生共創課を拠点に、県内各地で活動している団体等と連携を図りながら、ボーダレスな舞台芸術事業を展開しています。公演による鑑賞の機会を増やすだけでなく、参加型企画であるワークショップも開催し、県民の皆様をはじめ多くの方々に多様な文化芸術に触れる機会や実際に参加する場を作ること、障がいや年齢などに関わらず、子どもから大人まですべての人が「ともに生きる」「ともに創る」社会の実現に寄与することを目指します。

2019年度から、神奈川県内のシニアとともに、神奈川独自のシニア舞台芸術活動として“かながわシニア創作創造プロジェクト”を立ち上げ、シニアのためのダンス表現プロジェクト「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」と、横須賀市・綾瀬市・小田原市を拠点とするシニア劇団の2つのプロジェクトがスタートしました。他にも、公演事業として、「障がい者」「高齢者」「多文化共生」をテーマにした公演や、「ともに生きる」「ともに創る」社会の実現に向けたシンポジウムを行っています。

「身 体で考える」とよく言いますが、物事を頭の中で考えて理屈で解ったつもりでいても、身体を動かしてみるとイメージが変わったり、理解が一層深まったりすることがあります。年齢を重ねていくと、私たちは経験から知ったつもりでどんどん体を動かさなくなり、自分で世界を狭くしていくようです。「身体で考える」ことは、自分の手の先、足の先を動かすことで、改めて自分の存在を確かめることです。安藤洋子さんのレッスンでも一番大事にされているのは、手足の先を使うことで自身の身体を中心に意識することだと思います。それは、脳に刺激を与え想像力を膨らませてくれます。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

白井 晃
KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督



撮影：二石友希

黒岩 祐治
神奈川県知事

県 が実施する「共生共創事業」取組の一つである「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」は、世界の第一線で踊ってこられた安藤洋子さんを講師に迎えたシニアの方向けのダンス企画で、大変好評をいただいています。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、一時活動を中断していましたが、このたび、参加者の皆さんに御自宅から参加いただくリモートワークショップの形で再開しました。感染防止のため外出機会が減る中、御自宅で安全にダンスを楽しんでいただくことができ、さらに、運動不足を解消することで未病の改善にもつながります。シニアの皆さん、コロナに負けずに文化芸術を共に楽しみましょう！

参加者募集

ワークショップやクリエイションに参加してくださる方を募集しています。

最新のワークショップ情報は共生共創事業 WEB サイトをご確認ください。
<https://kyosei-kyoso.jp/project/#t-cots>

【お問い合わせ先】

チャレンジ・オブ・ザ・シルバー事務局
TEL：070-5457-1201（10:00～18:00）
MAIL：challenge.office.ando@gmail.com



オンラインダンスレッスン参加者募集

オンラインでのダンスレッスンを開催しています。
お気軽にご参加ください。

【参加条件】

- 神奈川県内在住・在勤の60歳以上の方
- ZOOMやYouTubeを使用する通信機器で受信できるメールアドレスをお持ちの方

【参加料】

無料

※通信費等は参加者の負担となります。予めご了承ください。

【選べる2つの参加方法】

① ZOOM

ZOOMで対面レッスン(定員：30名程度)
Web会議サービスZOOMを使った、リアルタイムのオンライン対面レッスンです。

② YouTube

YouTubeのライブ配信を視聴して頂きます。
ZOOM環境を整えるのが難しい方、レッスンをお試ししてみたい方におすすめです。

オンラインレッスンに必要なもの

パソコンなど（どれかひとつ）



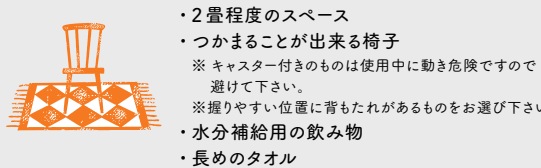
+

インターネット（いずれか）



+

その他



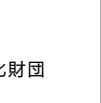
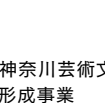
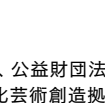
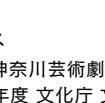
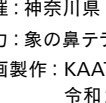
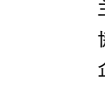
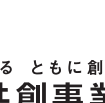
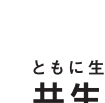
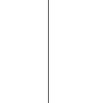
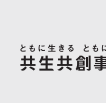
動画公開中！
ダンスレッスン
自宅でできる

シニアのためのお家でできる心軽やかダンスレッスン

新型コロナウイルス感染防止のため、外出機会が減り運動不足になりやすくなっているシニアのためにダンスレッスン動画を作りました。
楽しく未病改善に取り組みましょう！



動画 (YouTube)
「かなチャンTV」はこちらから！



世界の第一線で活躍してきたダンサー・安藤洋子が、神奈川県内在住・在勤の60歳以上のシニアを対象に、新たなダンス表現を創り出すためのプロジェクトです。横浜市での継続的なワークショップの開催と、県内各地で開催するお出かけワークショップを重ねながら、年に1度、安藤洋子企画・演出のダンス作品を創作・発表します。



対面ワークショップ

横浜市（主な拠点：KAAT神奈川芸術劇場、象の鼻テラス）で継続的なワークショップを開催しています。県内在住・在勤の60歳以上の方ならどなたでもご参加いただけます。



オンラインワークショップ

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年9月よりZOOMとYouTubeLiveを使ったオンラインダンスレッスンを開催しています。身体は動かしたいけれど、外出を控えている方、県内在住・在勤だけど横浜まで行くのが難しい方におすすめです。



お出かけワークショップ

神奈川県内の各地に出張して行うワークショップです。ワークショップを県内で広く展開することで、より多くの方々に新たにダンス表現に挑戦していただくことを目指します。

【開催実績】2019年11～12月 鎌倉市 鎌倉芸術館
2020年2月 横浜市 赤レンガ倉庫

現代を切り取る表現であるコンテンポラリーアートやダンスに魅せられ表現を模索していく過程で、縁あって16年間ヨーロッパで生活しました。その時に強く印象に残っているのが、ご年配の方々が芸術や自己表現を生き生きと楽しむ姿です。自分の感覚を磨き、美意識を持ち続け、日々の生活の中に文化芸術を大切にすることが育まれていることがとても素敵だなと感じました。私が生まれ育った神奈川県でプロジェクトを通してみなさんと出会い、表現を通じて交流できることは大きな喜びです。自分を見つめ、人生を味わうことをみなさんから学んでいきたいと思っています。

【PROFILE】

ダンサー、振付家。神奈川県横浜市生まれ。コンテンポラリーダンスを木佐貫邦子に師事。野田秀樹や小澤征爾、坂本龍一の舞台でも活躍。2001年アジア人として初めて、鬼才の演出家ウィリアム・フォーサイスの目にとまりドイツ・フランクフルトバレエ団に入団。メインソロダンサーとしてドイツを拠点に世界各国で踊る。現在は日本とNYを拠点にアーティストとして自己の身体表現を模索するとともに、経験を生かした芸術教育に力を注ぐなど積極的に活動を続けている。



プロジェクトリーダー
安藤洋子



「お出かけダンスワークショップ」の共催者を募集しています。

【レッスンの流れ】

① コミュニケーションタイム

※オンラインワークショップの場合はZOOMの方のみ

講師が一人ひとりの方にお声がけし健康状態などを確認します。最近の健康状態や身体の悩みなど、自由にお話し下さい。

② ウォーミングアップ＆基礎練習

ストレッチやアイソレーション（身体の各部位を1つずつ動かす練習方法）を通して身体の基礎筋力を鍛えるとともに、解剖学的な身体の知識を学びながら、自分の身体について、いろいろな発見ができるよう導きます。

③ フロアレッスン

リズムを体感しながら心と身体をゆつくり解放します。身体表現していく上で大切な空間把握のテクニックなど、舞台上に立つための基礎を学びます。



オンライン開催や少人数レッスンでもOK！出張先にあったワークショップの開催方法をご提案させていただきます。神奈川県内で文化部門を担当されている方、ホールを運営されている方、文化芸術系の財団の方など、文化芸術活動を推進していられしやる皆様、お気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】

〒231-0023
神奈川県横浜市中区山下町281
KAAT神奈川芸術劇場 共生共創課
TEL：045-633-6811
FAX：045-681-1691
MAIL：kyoso@kanagawa-af.org
WEB：https://kyosei-kyoso.jp



※ワークショップの写真は2019年度のものです。



with Yoko + Dancing!

身体を動かすことだけを優先した健康体操ではなく、音楽に合わせるだけのダンスでもない。他者、自分、そして世界と向き合うような、心の充実も考えたダンスです。自分の身体の状態や仕組みを意識しながら楽しく身体を動かし、心の奥深くから湧き出る身体の言葉を紡ぎ出すことで、芸術や表現の力を借りて「未病改善」や「健康増進」を探ります。さらに、自己と他者、空間への意識を少しだけ変えることで、「日常の身体」から「表現し魅せる身体」へとアプローチし、ダンス表現に取り組みます。

色々な人が色々な感じ方で、自分の人生をこの場で出している感じがして、その多様性に感動しました。踊りは日常の生活のつながりの中にあるということを感じることができ、ここでの経験が日常生活に反映されています。

介護の仕事をしている私からみて、デイサービスや健康体操とは一味違うように思います。介護要望の前のシルバーが集まって体を動かし表現するというのが、心身ともに健康になるきっかけになるのではないかと期待しています。県域で広まって、共同体ができると楽しいなと思います。

横浜市在住・ワークショップ参加者
室井洋一さん

横浜市在住・ボランティアスタッフ
田口則子さん

安藤洋子がシニアと目指す「ダンス」とは？